

鎖国にいたる道

日本とヨーロッパの貿易には、まずポルトガル・スペインが、遅れてイギリス・オランダが参加した。江戸幕府は、当初積極的にそれらの国々と外交したが、キリスト教への警戒から次第に貿易を制限した。結果、キリスト教の布教を避けたオランダが、鎖国中の日本とも貿易を続けていくことができた。

○積極的な初期外交

●イギリスとオランダとの外交

16世紀末、イギリスとオランダが台頭し、アジアへの進出を図っていた。



1600年、オランダ船⁽¹⁾ _____ が豊後国に漂着した。

⇒徳川家康は船員のオランダ人航海士⁽²⁾ _____ (和名： _____) と、イギリス人水先案内⁽³⁾ _____ (和名： _____) を厚遇した。

⇒1609年にオランダが、1613年にイギリスが幕府から貿易の許可を得て、肥前国⁽⁴⁾ _____ に商館を開いた。

◇スペイン人・ポルトガル人を南蛮人と呼称したのに対して、オランダ人・イギリス人を紅毛人と呼称

⇒また、オランダ人・イギリス人はプロテスタント(新教)で、布教には不熱心



図1 リーフデ号



図2 平戸

●スペインとの外交

1596年、サン＝フェリペ号事件でスペインとの通交は一度途絶した。



1609年、フィリピンのルソン前総督ドン＝ロドリゴが上総国⁽⁵⁾に漂着した。

⇒1610年、徳川家康は京都の商人⁽⁵⁾ _____ を派遣し、ロドリゴをスペイン領⁽⁶⁾ _____ へ送った。

⇒この派遣を機に、スペインとの通交が再開された。



1613年、仙台藩主⁽⁷⁾ _____ は家臣⁽⁸⁾ _____ が率いる慶長遣欧使節を⁽⁹⁾ _____ へ送り、(6)と直接貿易を結ぼうとした。

⇒この使節は目的を果たせなかった。



図3 支倉常長

●ポルトガルとの外交

ポルトガル商人は、中国産の⁽¹⁰⁾ _____ を長崎に運んで販売した。

⇒日本の商人の自由競争による購入で、(10)の値段は釣り上がり、ポルトガル商人は巨額の利益を得た。



1604年、⁽¹¹⁾ _____ …「京都・堺・長崎」の豪商に⁽¹²⁾ _____ をつくらせ、

(12)に一定価格で(10)を一括購入させた制度

…結果としてポルトガル商人の暴利を抑制成功

◇(12) …後に「江戸・大坂」の豪商を加え、⁽¹³⁾ _____ とも呼称



図4 生糸



図5 糸割符仲間(右)

●明との外交

当時、⁽¹⁴⁾ _____ は海禁政策をとり、商人の自由な貿易を禁じていた。

⇒徳川家康は、朝鮮・琉球王国を通じて(14)との国交回復を交渉したが拒否された。

◇正式な国交回復を諦め、江戸幕府は中国船との私貿易を開始

●日本人の海外進出

江戸幕府は、海外進出に挑む商人に⁽¹⁵⁾ _____ を与え、渡航を許可した。

⇒長崎の末次平蔵^{すえつぐへいそう}、摂津の末吉孫左衛門^{すえよし}、京都の角倉了以^{すみのくら}・⁽¹⁶⁾ _____ が、
(15)を得たことから⁽¹⁷⁾ _____ と呼ばれる貿易船を使い、貿易を活発におこなった。



図6 山田長政

海外移住する日本人も増え、東南アジア各地に⁽¹⁸⁾ _____ がつくられた。

⇒山田長政は、⁽¹⁹⁾ _____ (シャム)のアユタヤ朝に重用され、⁽¹⁸⁾の長になった。

○鎖国という状態

●鎖国へ

次の2つの理由から、江戸幕府は次第に渡航や貿易に制限を加えた。

①キリスト教への禁教政策(1612~13年、⁽²⁰⁾ _____)

②幕府の貿易利益独占(大名の富強防止)

- 1616年、中国船を除く外国船の寄港を⁽²¹⁾ _____ と⁽²²⁾ _____ に制限
- 1622年、長崎の^{げんな}元和の大殉教で55人の信者・宣教師を処刑
- 1623年、イギリスがオランダに敗れ、日本との貿易から撤退
- 1624年、⁽²³⁾ _____ の来航を禁止
- 1633(寛永12)年、老中の許可状を得た⁽²⁴⁾ _____ 以外の渡航を禁止
- 1635年、日本人の渡航・帰国を禁止し、中国船の寄港を⁽²⁵⁾ _____ に制限
- 1637年、⁽²⁶⁾ _____ 発生(翌年鎮圧)
- 1639(寛永16)年、⁽²⁷⁾ _____ の来航を禁止
- 1641年、平戸の⁽²⁸⁾ _____ の商館を長崎の⁽²⁹⁾ _____ に移動

以後200年間、日本はオランダ・中国・朝鮮・琉球王国・アイヌ以外と交渉せず、
いわゆる⁽³⁰⁾ _____ の状態となった。

⇒来航する貿易船はオランダ船・中国船のみで、貿易港は長崎に限定された。

◇(30) …ドイツ人⁽³¹⁾ _____ が著書『⁽³²⁾ _____』で日本の状態を指摘し、
これを⁽³³⁾ _____ が「鎖国論」と和訳したことに由来

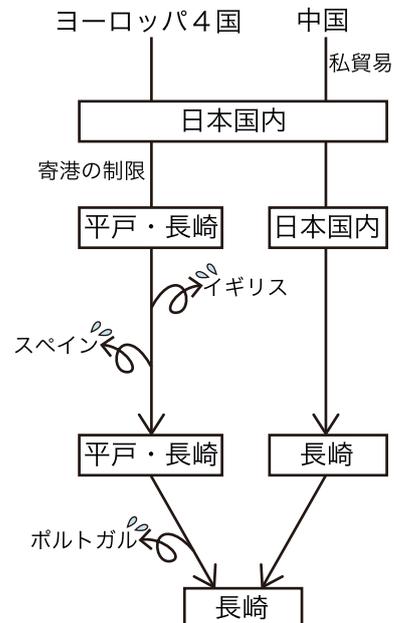


図7 鎖国への道



図8 ケンペル

「鎖国」状態を「祖法」にした者—松平定信

「鎖国」という言葉は海外からのレッテルと言え、江戸時代の日本は「四つの窓口」で異国と盛んに交流し、また、新規外交を拒絶する方針も当初定めていなかった。それが定まるのは、18世紀末のロシアの通商要請を断るため、松平定信が今の外交関係維持が幕府創立以来の「祖法」だと宣言した時であった。「鎖国」という言葉の印象で江戸時代を捉えることは、時代像を大きくねじ曲げて理解することになる。

